

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ツマジロクサヨトウの発生状況（技術情報第 8 号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。
記

ツマジロクサヨトウの本年のフェロモントラップ誘殺数は前年並ですが、発生のピークは早い傾向です。過去 2 年の傾向から 8 月以降に発生量が急増する可能性があり、今後スイートコーンや飼料用トウモロコシ等の生育初期に被害が増加することが懸念されます。生産ほ場を定期的に見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

1 現在の発生状況

合志市における本年のフェロモントラップの誘殺数は概ね前年並であったが、前年に比べて誘殺のピークの時期がやや早い傾向にあり、ピーク時の誘殺数も多くなっている（図 1）。

2 今後の発生予想

- （ 1 ）令和 2 年及び令和 3 年のフェロモントラップの誘殺数は、7 月までは低く推移したものの、8 月以降から増加傾向となり、10 月に急増した（図 2）。本年も同様に今後の発生量が増加することが懸念される。
- （ 2 ）今後、飼料用トウモロコシやスイートコーン等において、特に生育初期の被害が増加することが懸念される。

3 防除対策等

- （ 1 ）本害虫は主に飼料用トウモロコシ、スイートコーン等を食害する（図 3、図 4）。特に生育初期に食害されると、被害が大きくなり減収につながるため、定期的な見回りによる早期発見に努め、発生が確認された場合には速やかに農薬等を用いて防除を行う。なお、ツマジロクサヨトウと判断することが難しい場合には、病害虫防除所に相談する。
- （ 2 ）現在、本害虫に登録がある農薬は別紙 2 のとおり。ただし、飼料用トウモロコシ等で使用できる農薬が少ないことから、本県では、植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく措置として、当面の間、別紙 1 に記載された農薬による防除が可能である。
注）ツマジロクサヨトウへの農薬登録の状況等により、今後、本県における同法第 29 条第 1 項に基づく措置を終了する場合がある。

- (3) 農薬の散布に当たっては、新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くように株の上部までしっかりと散布する。
- (4) 農林水産省のホームページにツマジロクサヨトウの防除対策等に関する情報が掲載されているので、防除の参考にする。
(https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)
- (5) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで注意事項等を確認し、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底する。

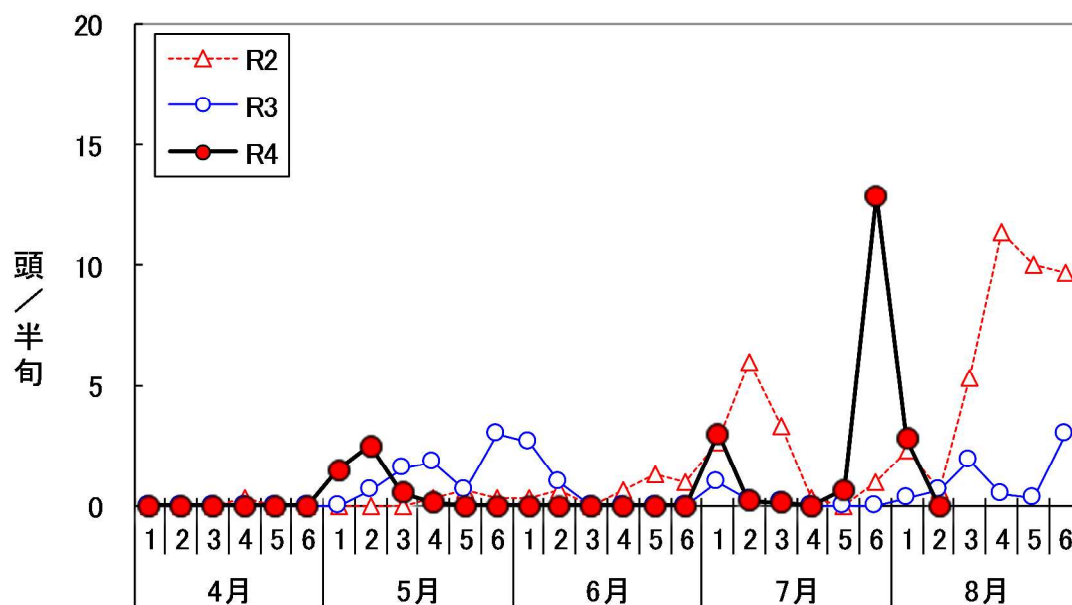


図1 ツマジロクサヨトウのフェロモントラップ誘殺数の推移
(合志市3地点平均 期間4月－8月)

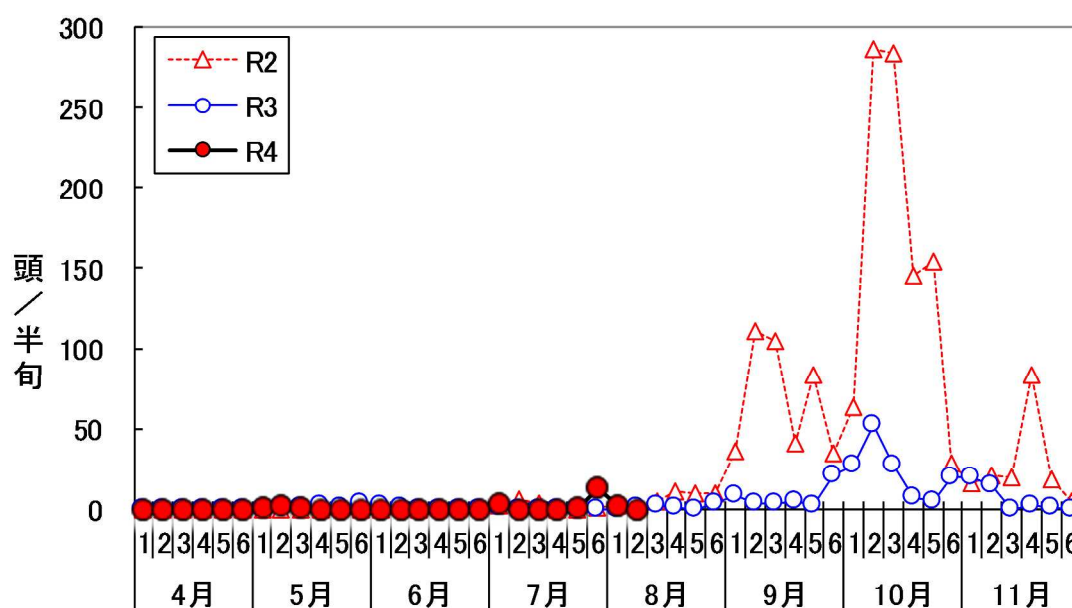


図2 ツマジロクサヨトウのフェロモントラップ誘殺数の推移
(合志市3地点平均 期間4月－11月)



図3 飼料用トウモロコシの被害株



図4 ツマジロクサヨトウ幼虫

熊本県病虫害防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)

担当：岡島、中井

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

熊本県において植物防疫法第29条第1項の防除を行うために引き続き使用できる農薬一覧

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459, 21694, 21695)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
NAC粒剤	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 但し収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
フィプロニル水和剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
ペルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
レピメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○とうもろこし(子実)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
イソキサチオン乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
ペルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内

○さとうきび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BPMC・MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
BPMC・MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
BPMC乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEPマイクロカプセル剤	散布	収穫90日前まで	—	500～1000倍	4回以内
MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
カルボスルファン粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6～9kg/10a	1回
カルボスルファン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
クロチアニジン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2500倍	3回以内
クロチアニジン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
クロラントラニブロール粒剤	株元散布	生育期但し、最終培土まで		4～6kg/10a	1回
クロラントラニブロール粒剤	植溝土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
プロチオホス粉粒剤	株元処理土壌混和	生育期但し、収穫90日前まで		15kg/10a	2回以内
ベンフラカルブ粒剤	株元散布又は株元土壌混和	培土時		4～6kg/10a	1回
ベンフラカルブ粒剤	植溝土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回

○農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。

○また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努めましょう。

○水稻

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤 (20479, 23943)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	2000～4000倍	－
BT水和剤 (20479, 23943)	無人航空機による散布	発生初期但し、収穫前日まで	0.8L/10a	16倍	－
MEP乳剤	散布	収穫21日前まで	60～150L/10a	1000倍	2回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		3～4kg/10a	3回以内
エトフェンプロックス乳剤	散布	収穫14日前まで	60～150L/10a	1000倍	3回以内

○稲(箱育苗)

農薬の種類	使用方法	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
クロラントラニリブロール粒剤	育苗箱の上から均一に散布する	は種時(覆土前)～移植当日	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	1回
スピノサド粒剤	育苗箱の上から均一に散布する	移植2日前～移植当日	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	1回
フィプロニル粒剤	育苗箱の上から均一に散布する	は種時(覆土前)～移植当日	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	1回

○さつまいも

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤 (21694, 21695)	散布	発生初期収穫前日まで	100～300L/10a	500倍	－
BT水和剤 (21694, 21695)	散布	発生初期収穫前日まで	100～300L/10a	500～750倍	－
BT水和剤 (19616,19618,19899,20653, 21694,21695,21944,23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	－
BT水和剤 (20479, 23943)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	－
BT水和剤 (20479, 23943)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000～3000倍	－
PAP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
PAP粉剤	散布	収穫7日前まで		3kg/10a	4回以内
アラニカルブ水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	5回以内
インドキサルブ水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
エトフェンプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	3回以内
エマメクチン安息香酸塩・クロラントラニリブロール水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニリブロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	3回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
クロルフルアズロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	5回以内
シアントラニリブロール水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	3回以内
シベルメリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
シベルメリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
シベルメリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	5回以内
シベルメリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	5回以内
スタイナーネマ カーボカプサエ剤	土壌灌注	老令幼虫発生期	500～2000L/10a	2億5000万頭(約100g)/10a	－
スピネトラム水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2500～5000倍	2回以内
ダイアジノン・メソミル粒剤	散布	収穫30日前まで		4～6kg/10a	2回以内
テブフェノジド水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～3000倍	3回以内
テブフェノジド粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	3回以内
テフルベンズロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
ノバルロン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	2回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
フェンバレレート・マラソン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	5回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～6000倍	2回以内
プロチオホス乳剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
プロフェノホス乳剤	散布	収穫7日前まで		1500倍	3回以内
メソミル水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	5回以内
メソミル粉粒剤	散布	収穫7日前まで		3～5kg/10a	5回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
メキシフェノジド水和剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	4000倍	3回以内
ルフェヌロン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000～3000倍	2回以内
レビメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～3000倍	3回以内

○農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。

○また、ミツバチや魚介類など周辺動物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努めましょう。

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内

○きび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
エトフェンプロックス乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
BT水和剤(19885,21944,20653)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	－
BT水和剤(14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	－
BT水和剤(21694,21695)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	－

○イネ科牧草

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
MEP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
ジノテフラン水溶剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
ジノテフラン液剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○しょうが

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19885)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	－
アセフェート水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
インドキサカルブ水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
エトフェンプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1500倍	5回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
クロラントラニリプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
ジフルベンズロン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
テブフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
テフルベンズロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○はとむぎ

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
カルタップ粒剤	散布	収穫14日前まで		4kg/10a	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫14日前まで	60～150L/10a	1500倍	2回以内
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	－
BT水和剤(21694, 21695)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	－
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	－

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。

○農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。
○また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努めましょう。

ツマジロクサヨトウ登録農薬一覧

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19899, 22653, 22654, 23884)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	500倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000～1500倍	2回以内

○とうもろこし【とうもろこし(子実)、未成熟とうもろこし】

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19899, 22653, 22654, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	500倍	—
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000～1500倍	2回以内
エトフェンプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
フェンバレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
テトラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
シアントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	4000倍	3回以内
クロチアニジン水溶剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	3回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○ヤングコーン

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内

○さとうきび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
	無人航空機による散布	収穫30日前まで	2.4L/10a	50倍	3回以内
クロラントラニプロール・ジノテフラン水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守しましょう。
 ○また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努めましょう。